

採決前 席立った首相

15日正午すぎ、衆院特別委員会が開かれた第1委員会。共産の赤嶺政賢議員が「議論は尽くされていない」と審議継続を求める動議を出した。これが否決されたのを合図に、浜田靖一委員長が声を張り上げた。「この際おはかりします」

野党議員が「強行採決反対」と書いたプラカードを手になだれ込むなか、安倍首相は静かに席を立つ。怒号とヤジの中での討論と採決を経て、午後0時20分過ぎ、法案は可決された。

首相の離席について「強行採決の当事者という印象を与えないため」と感じた赤嶺氏。「問題が次々に生じるなか、突っ走っているのは首相自身。与党理事らには勝ち誇った様子はなかった。歓喜なき強行だ」

自民の平沢勝栄議員は特

別委の審議について「ボタンの掛け違いがあった」と悔しがらる。誤算は憲法審査会で憲法学者3人に違憲と指摘されたことだ。「合憲・違憲の議論に傾き、本質論が深まらなかった。参院の審議を通して、そして、成立してからも、国民に理解してもらおう努力を続けていかないとならない」

民主の寺田学議員は可決の瞬間、「委員長、思い直してください」と詰め寄った。

衆院特別委審議 NHK中継なし

NHKは15日にあった安全保障関連法案を巡る衆院特別委員会の審議を中継しなかった。採決の瞬間は昼のニュースを延長して中継した。NHK広報局によると常に国会中継があるのは

た。安倍首相は15日、「国民の理解が進んでいる状況ではない」と認めたが、寺田議員は「時間だけ消化するのが念頭にあり、理解を得ようとしていなかった」と憤った。維新の青柳陽一郎議員は退席。委員室の壁側で採決を見守り、可決に安堵する与党の委員を眺めながら思った。「週末に地元に戻って自信を持って説明できるのだろうか」

本会議の施政方針演説や所信表明演説など。今回は「各会派が一致して委員会の開催に合意することなどを、適宜、総合的に判断した」と説明する。

衆議院もインターネットで審議を中継している。しかし、15日はアクセスが集中し一時見られない状態になった。